

平成29年11月10日

福生市議会議長 杉山 行男 様

建設環境委員会委員長 武藤 政義

平成29年度 福生市議会建設環境委員会視察報告書

本委員会は、平成29年度行政視察を次のとおり実施しましたので、報告いたします。

1 視察日程

平成29年10月4日(水)～5日(木)

2 視察先及び目的

(1) 愛知県一宮市

尾張一宮駅前ビル「交流・文化拠点」整備事業について

(2) 愛知県蒲郡市

観光施策について

3 視察参加者

委員長： 武藤 政義

副委員長： 大野 聡

委員： 青木 健

委員： 末次 和夫

委員： 田村 昌巳

委員： 田村 正秋

随員： 島田 基美香(事務局)

愛知県一宮市 視察 【10月4日(水)】

1 市の概要(平成29年8月現在)

- (1)面積 113.82 km²
- (2)人口 380,668 人
- (3)世帯数 142,480 世帯
- (4)概要

「一宮市」という名前は尾張国の一宮である「真清田神社」があることに由来する。他地域の「一宮」と区別するため、尾張一宮とも呼ばれる。(愛知県内には、平成18年まで東三河地方に宝飯郡一宮町(現・豊川市の一部)があった。こちらは「三河一宮」である。)

かつては織物で知られた。紡績・繊維産業の一大中心地であったので「女工の街」と呼ばれたことがあり、女性人口が多い。住民基本台帳人口で、県内3位。国勢調査推計人口で県内4位。道路、鉄道の利便性が良いので、近年は、織物・紡績・繊維の工場跡は住宅・商業施設になっており、名古屋のベッドタウンとして発展している。平成17年4月1日に、隣接する尾西市と葉栗郡木曾川町を編入し、人口38万人を超えた。

2 視察概要

<視察地選定の理由>

福生市では中心市街地の活性化、福生駅周辺のまちづくりが始まろうとしております。駅周辺に公共施設を集めて、まちの賑わいを創出するという手法を取っている自治体はいくつかあり、それぞれに目的を達成しています。一宮市の尾張一宮駅前ビルはそのような成功例の一つといえるので、参考になると判断して視察地に選定した。

<調査事項>

1 駅前複合ビルの運用について

- (1)尾張一宮駅前ビル(i-ビル)の施設概要について
- (2)i-ビルの特徴について
- (3)その他

2 駅前立地の利便性を生かした運用について

- (1)稼働率等について
- (2)その他

3 今後の展望と課題について

1 駅前複合ビルの運用について

(1) 尾張一宮駅前ビル(i-ビル)の施設概要について

尾張一宮駅前ビル(愛称「i-ビル」)は、JR尾張一宮駅に隣接し、尾張西部の中核都市の新たな玄関口として誕生しました。i-ビルは図書館や子育て支援センターなどの複合的な施設で、多用途に利用できるのが特徴です。交通の利便性やにぎわいを活かして、開放的な空間が特徴のシビックテラスでイベントを行ったり、各種団体の活動や発表の場としてシビックホールを利用したりできます。

また、シビックテラスや休憩スペースなどには、休憩などに利用できるテーブル・イスが置いてあり、自由におくつろぎいただけます。公衆無線LANサービスも用意されており、無料でWi-Fiに接続できるエリアがあります。

(2) i-ビルの特徴について

共用エリアには人感センサーを配置し、照明エネルギーの軽減を図っています。また、水洗トイレには雨水を利用し、水道水の軽減を図っています。

(3) その他

愛称の i-ビルは、市制90周年記念事業として、尾張一宮駅前ビルの愛称を募集し、応募総数982件の中から選ばれました。「i」は一宮市の頭文字であり、「愛」、「私(1)」という意味があり、情報(インフォメーション)の発信基地との連想もできます。みなさんに愛され親しまれる空間になってほしいとの思いが込められています。

2 駅前立地の利便性を生かした運用について

(1) 稼働率等について

平成28年度尾張一宮駅前ビルの利用者数は11万5千人とのこと。

愛知県統計年鑑によると、平成7年の尾張一宮駅の一日平均乗車人数は20,953人であるが、その後年々増え続け、平成19年以降は26,000人代を維持している。

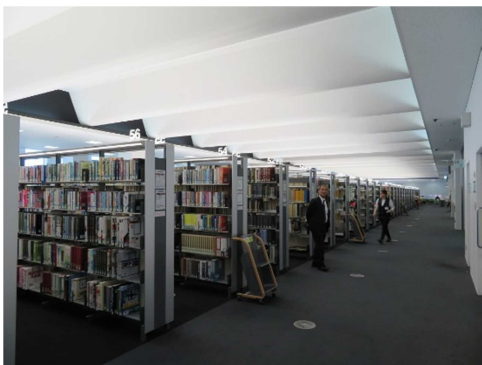
(2) その他

3 今後の展望と課題について

尾張一宮駅前ビルができたことによって駅周辺の賑わいは創出できたと思う。これからは、駅周辺に集まってくれた人たちに、いかに回遊していただくかを考えていかなければならない。



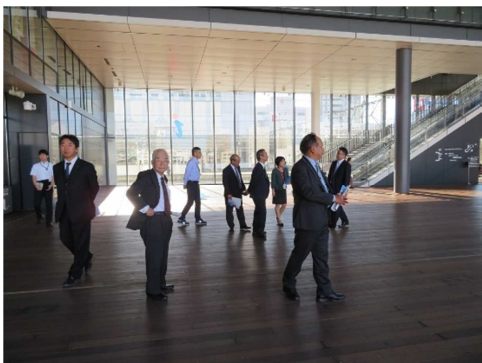
尾張一宮駅前ビルにて、一宮市の職員さんより説明していただきました。



5～7階は図書館になっています。



託児スペースもあるので、駅を利用するお母さん方にはとても便利。



オープンスペースはこのように広がっています。

愛知県蒲郡市 視察 【10月5日(木)】

1 市の概要(平成29年4月現在)

- (1)面積 56.92 km²
- (2)人口 80,634 人
- (3)世帯数 31,685 世帯
- (4)概要

昭和29年4月1日市制施行された愛知県下15番目の市である。市名は蒲形村と西之郡村(現在の市中心部)から一文字ずつ取った合成地名に由来する。本州のほぼ中心に位置し、渥美半島と知多半島に囲まれた温暖な気候の海辺の街で、沿岸一帯が三河湾国定公園に指定されている。明治期から全国的知名度を誇っている「景勝地竹島」(愛知県)と棧橋で繋がる橋の袂には、大正～昭和初期に文人達が多く利用した料理旅館「常磐館」があり、菊池寛の「火華」をはじめ多くの文学作品に登場すると共に、その他多くの作品が蒲郡市を舞台とした文芸作品群として残されている。現在、跡地には「海辺の文学記念館」があり、その足跡を残している。また、現在も愛知県を代表する歴史的建築物であり、現役の宿泊施設「蒲郡クラシックホテル」として営業する「旧蒲郡ホテル」の建物は、城郭風の外観にアールデコ様式の内装と独特の建築であり、春にはつつじ祭りが開かれ市内には4つの温泉郷があるほか、マリニジャーやテーマパークもあり、海と山に囲まれた景勝地であり、県内屈指の観光地でもある。

産業面では、温暖な気候を活かしたフルーツ栽培がさかんで、特に「蒲郡みかん」の生産では日本国内で有名で、温室栽培の「蒲郡温室みかん」の出荷量は全国屈指である。また、伝統の「三河織物」では織物・繊維ロープ工業が発展し、昭和40年代には市内工業製造出荷額のうち80%近くを占めていた。現在は、工業分野の多様化により繊維工業の比率は下がっているものの、繊維ロープ製造業界においては日本一の生産量を誇る。

2 視察概要

<視察地選定の理由>

先進的な観光施策の取り組みについて教えていただくことで、福生市の観光施策構築に役立てたい。

<調査事項>

- 1 特色ある観光施策の推進について
 - (1)観光交流立市宣言について
 - (2)その他

2 蒲郡市観光ビジョン、アクションプランについて

- (1)概要について
- (2)産・官・民で連携した観光産業の推進について
- (3)情報発信について
- (4)効果等について
- (5)その他

3 ナビテラス(蒲郡市観光交流センター)について

- (1)概要について
- (2)今後の展開について
- (3)その他

4 今後の課題について

1 特色ある観光施策の推進について

(1)観光交流立市宣言について

平成17年蒲郡市議会3月議会において、都市宣言として「観光交流立市」の宣言が議決されました。これは、平成17年1月に市長に答申された「蒲郡市観光ビジョン」を受けて提案されたもので、市制50周年の締めくくりに、これからの50年を見据えて、宣言されたものです。

わたしたちの暮らすまち蒲郡は、温暖な気候と美しい風景に恵まれた、三河湾国定公園の中心的位置にあり、鉄道唱歌東海道編30番に「豊橋おりて乗る汽車はこれぞ豊川稻荷道 東海道にてすぐれたる 海のながめは蒲郡」とうたわれた観光地として注目されてきました。

しかし、わたしたちのまちは、時代の移り変わりとともに、「すぐれたる蒲郡」を改めて見つめ直し、市民一人ひとりの力を結集して生まれ変わることが求められています。

わたしたちは、先人の育ててきた歴史、産業、文化を受け継いで、その一つひとつを蒲郡市の「光」として誇りに思い、市民一人ひとりが地域、職業、世代を超えて、お互いに理解と交流、共生をし、自己表現、情報発信をすることが必要な時代を迎えています。

ここに、市制50周年に当たり、新たな50年を見据えて「観光交流立市」を宣言し、市民の、市民による、市民のための観光交流都市に育てていくことを目指します。

○わたしたちは、先人の育ててきた歴史、産業、文化をふり返って、それぞれから受け継いだ宝とそのつながりをまちの「光」と考え、その知恵を理解し、誇り高く語ることから始めます。

○わたしたちは、よき旅人となって見聞を広めることを喜びとし、人々との交流を深め、

このまちのよさを発見することに努めます。

○わたしたちは、旅人を迎える喜びと、美しいまちで、美しく暮らすことの幸せを大切にし、子どもたちにそのすばらしさを伝えていきます。

○わたしたちは、まちのたたずまいや風景、行事を通して、住み心地のよい環境を育て、市民の、市民による、市民のための観光交流都市を目指します。

2 蒲郡市観光ビジョン、アクションプランについて

(1) 概要について

市民の市民による市民のための「観光交流都市」育て、という基本理念のもと、平成16年に策定され、平成22年、平成28年に改訂されている。詳しい内容についてはホームページ等で確認できます。

(2) 産・官・民で連携した観光産業の推進について

蒲郡市では、「蒲郡観光交流おもてなしコンシェルジュ」という施策を行っている。これは、蒲郡市民全体で、蒲郡市に訪れる方をお迎えする心を醸成することと同時に、蒲郡の魅力をより知っていただき、蒲郡を誇りに思っていていただくことを目的としている。

(3) 情報発信について

情報の発信については、この後説明するナビテラス(蒲郡市観光交流センター)にて行っている。

(4) 効果等について

平成20年は332人だった蒲郡観光交流おもてなしコンシェルジュが、平成28年は1140人にまで増えている。

3 ナビテラス(蒲郡市観光交流センター)について

(1) 概要について

平成25年、蒲郡駅北口にオープン。ナビテラスとは、蒲郡市観光交流センターの愛称で、海辺のテラスでくつろぐ感覚で観光情報を得ることができる場所という意味合いから名付けられたとのこと。

(2) 今後の展開について

外国人観光客が増えているので、更に機能的な受け入れ体制を構築していきたいとのこと。

4 今後の課題について

観光を取り巻く環境が大きく変化しているので、新しい価値観に対応できる観光地づくりが求められている。地場産業との連携、市民との連携など、地域づくりの観点からの取り組みが不可欠。



ナビテラスの正面玄関。



ナビテラスの中はこのような雰囲気になっています。



蒲郡市役所にて担当の職員さんに説明していただきました。



最後は建設環境委員会全員で集合写真。

所感

愛知県一宮市

尾張一宮駅前ビル「交流・文化拠点」整備事業について

福生市においても、中心市街地の活性化は大きな課題の一つであり、福生駅西口の再開発、東口富士見通りの拡幅などの事業が間近に迫っている状況にある。そういった中で、尾張一宮駅前ビル「交流・文化拠点」整備事業について学べたことは非常に大きな意味があると感じている。駅周辺を交流の拠点にすることで、まちの賑わいを創出できた素晴らしい例だと思う。ここで見させていただいたことを、あらゆる場面で披露していきたいと思う。

愛知県蒲郡市

観光施策について

観光交流立市の宣言が議決されるだけあって、まちの中に観光が占める割合が大きいと感じた。おもてなしコンシェルジュを代表として、まちの人たちの多くが観光に関わっており、まち全体で訪れた人を迎えるという空気ができていると感じた。観光資源を有効に活かしていこうとするまちの姿勢には、ただただ感動するばかりでありました。

参考：

一宮市ホームページ

尾張一宮駅前ビルホームページ

蒲郡市ホームページ

Wikipedia